

研究会  
たより

昔のことだが、自分がどうして情報処理学会に入ったのか、ほとんど憶えていない。たぶん、全国大会で発表するためだったと思う。しかし、どうして全国大会で発表したのか、それも憶えていない。私が修士の学生のときにいた研究室（というかゼミ）は、学生に学会で発表することを強要するようなところではなかったし、しかも全国大会のようなたった15分の「情報处理的」な発表を勧めるようなことはなかったと思う。それでも、なぜだか分からないが、情報処理学会に勝手に入って勝手に全国大会に申し込んで勝手に発表したような気がする。いまならば、学会発表というと、大騒ぎをして発表練習を何度もやるのかもしれないが、勝手に申し込んだので、練習などもまったくせず、その場でぶっつけで発表していたような気がする。のどかな時代である。

どうしてだろうと思って、学会のホームページで調べてみると、第23回の全国大会は東京大学で開催されていたのであった（本当に、いま調べて分かったことである）。そうか、自分が通う大学で学会があるので、一度発表してやろう、とでも思ったのだろうか。そういえば、そのころは鈴木則久先生が東大にいて、三四郎プロジェクトというのをやっていたところで、鈴木先生の発表の最後のスライドにはプロジェクト・メンバの学生の名前がずらっと並んでいて、何とアメリカンな発表なのだろうと思った憶えがある。今では当たり前のことだが。

結局、自分の大学で開催された全国大会に冷やかし半分で発表するために学会に入って、その挙げ句に、全国大会のなれのはて（失礼！）でこんなにも苦労しようとは、自業自得としかいいようがない。

どこであったか憶えていなかったが、何を発表したかはさすがに憶えている。講演論文集を探すと4K-4、31ページにあった。もちろん原稿は手書きである。それも、説明が書いてあるのは最初の1ページだけで、その裏には自分で作ったプログラミング言語（正確には証明記述言語）で書かれたプログラムがスカスカに掲載されている。最初のページの文体は、まるでこの文章そのものである。「EPやDPをいうには、いくつかの方法があるが、Prawitzがやった、Natural Deduction (ND)のnormalizationによるのが、最も基本的で、実現も容易だ。」とか何とか書いている。20年以上、まったく進歩がないことが分かってしまう。なお、その原稿のある

講演論文集は1分冊である。まだのどかな時代であった。

その後、何度か委員をやったり座長をやったりはしたが、長い間、全国大会で発表した憶えがない。発表というと、やはり研究会が主であった。ついでこの間も、プログラミング研究会で発表をして<sup>ひんしゅく</sup>鬨聲を買ったりしている。

ここ数年は、従来の研究に加えて分子コンピューティング、特にDNAコンピューティングの研究をやっているが、第61回の愛媛の全国大会では「新しい計算パラダイム」というパネルがあって、パネリストとしてDNAコンピューティングの話を見せてもらった。

そして、今月（5月）の末にあるSACIS（先進的計算基盤システムシンポジウム）というシンポジウムでは、分子コンピューティングに関する基調講演をやらしていただける。不十分なりに準備を進めているが、きっとあまり受ける話ではできそうになく、非常に申し訳なく思っている。一方、他の学会では何度か話をしているが、情報処理学会のシンポジウムでは初めて基調講演をやらせていただくので、非常に嬉しくも思っている。

以前に、Turingの話に関連して、自分の研究方向について少し書いたが、自分のやってきたことをいま振り返ってみると、役に立たないものをずいぶん作ってきたなあ、という思いで一杯である。プログラミング言語にしても、ソフトウェアにしても、理論的な形式体系にしても、作っては捨て作っては捨て、という感じで、役に立つものは（たまにはあったが）ほとんどない。

いまも、DNAを使っているいろいろと役に立たないものを作っている。もちろん、役に立つものを作ることを目指しているのだが、そんなに簡単ではないのである。

コンピュータサイエンスとは、そういうものかもしれない。ただし、仲間がいないわけではない。分子コンピューティングの関係で、最近はケミスト（化学者）と話をすることが多いのだが、私が素人として持っている疑惑は、ケミストが作る分子はほとんど役に立たないのでは、という疑惑である。おそらく、100個に1個くらいしか役に立つものはないのではないかと。

「役に立たないものを作る」というセンスにおいて、ケミストと（私のような）コンピュータサイエンティストは似ているかもしれない、と最近は思っている。そんなこともSACISの講演では喋ろうかなと思ったりする。（はぎゃ）

（平成15年5月16日受付）

第24回（最終回）

## 最初の講演と最近の講演

萩谷昌己（東京大学／調査研究運営委員会委員長）

